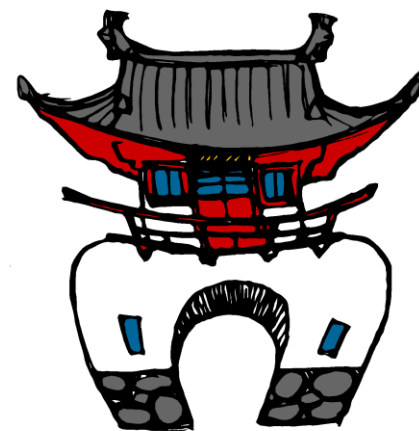


武雄市人口ビジョン(資料編)

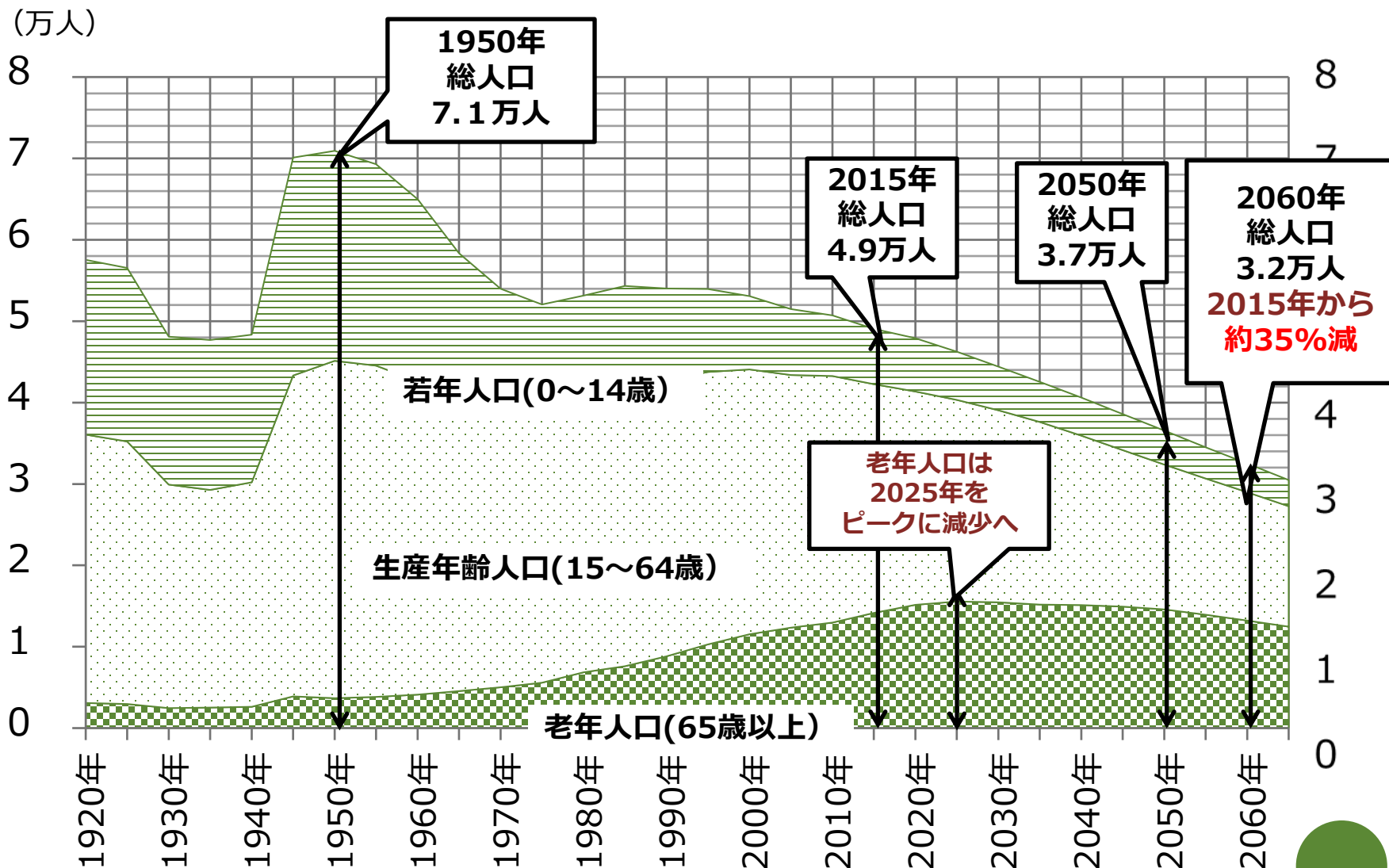


Ver.1.0 2015年(平成27年)9月策定
Ver.2.0 2020年(令和2年) 3月改訂
Ver.3.0 2025年(令和7年) 3月改訂

目次

大項目	中項目	小項目	スライド
1. 人口動向分析	(1) 時系列による人口動向分析	(Ⅰ) 総人口の推移	2,3
		(Ⅱ) 年齢3区分別人口の推移と将来推計	2,3
		(Ⅲ) 人口ピラミッドの推移	4
		(Ⅳ) 出生・死亡数、転入・転出数の推移	5
		(Ⅴ) 昼夜間人口比率の推移	6,7
		(Ⅵ) 在留外国人数	8,9,10
		<分析>	11~15
	(2) 年齢階級別の人口移動分析	(Ⅰ) 性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況	16,17,18
		(Ⅱ) 性別・年齢階級別の人口移動の長期的動向	19,20,21
		<分析>	22
2. 将来人口推計	(1) 将来人口推計	(Ⅰ) 武雄市の人口減少段階	23
		(Ⅱ) 武雄市の人口減少段階の推移	24
		<分析>	25
	(2) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析	(Ⅰ) 将来人口における自然増減の影響度、社会増減の影響度	26
		<分析>	27
3. 人口ビジョン2020年（Ver.2.0）と2025年（Ver.3.0）の比較		(1) 総人口の将来推計比較	28
		(2) 総人口年齢3区分別人口の将来推計比較	29
		(3) 年齢階級別の人口移動の最近の状況（男女計）	30
4. 将来人口の目標		(1) 将来人口の目標（市全体の総人口）	31
		(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計	32~40

1-(1)-(Ⅰ)(Ⅱ)総人口、年齢3区分別人口の推移と将来推計



(出典)「国勢調査(1920(大正9年)~2020(令和2年))」(総務省)

(注) 2025年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供データ(社人研推計準拠)から計上

※全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計

1-(1)-(Ⅰ)(Ⅱ)総人口、年齢3区分別人口の推移と将来推計

	1920 大正9	1925 大正14	1930 昭和5	1935 昭和10	1940 昭和15	1947 昭和22	1950 昭和25	1955 昭和30	1960 昭和35	1965 昭和40	1970 昭和45	1975 昭和50	1980 昭和55	1985 昭和60	1990 平成2
総数	57,529	56,546	48,083	47,684	48,342	70,087	70,929	69,302	65,000	58,343	53,997	52,041	53,156	54,319	54,004
0～ 14歳	21,481	21,322	18,162	18,415	18,151	26,766	25,801	24,764	22,390	17,408	13,825	12,558	12,321	12,259	11,243
	37.3%	37.7%	37.8%	38.6%	37.5%	38.2%	36.4%	35.7%	34.4%	29.8%	25.6%	24.1%	23.2%	22.6%	20.8%
15～ 64歳	32,957	32,277	27,463	26,741	27,578	39,422	41,454	40,700	38,484	36,373	35,167	33,889	33,989	34,468	33,935
	57.3%	57.1%	57.1%	56.1%	57.0%	56.2%	58.4%	58.7%	59.2%	62.3%	65.1%	65.1%	63.9%	63.5%	62.8%
65歳 以上	3,091	2,947	2,458	2,528	2,613	3,899	3,674	3,838	4,126	4,562	5,005	5,594	6,846	7,592	8,826
	5.4%	5.2%	5.1%	5.3%	5.4%	5.6%	5.2%	5.5%	6.3%	7.8%	9.3%	10.7%	12.9%	14.0%	16.3%

※2025年以降は推計値

	1995 平成7	2000 平成12	2005 平成17	2010 平成22	2015 平成27	2020 令和2	2025 令和7	2030 令和12	2035 令和17	2040 令和22	2045 令和27	2050 令和32	2055 令和37	2060 令和42
総数	53,943	53,068	51,497	50,699	49,062	47,914	46,267	44,426	42,541	40,605	38,602	36,556	34,512	32,495
0～ 14歳	10,172	9,003	8,099	7,422	6,795	6,551	5,929	5,368	4,926	4,676	4,446	4,168	3,843	3,503
	18.9%	17.0%	15.7%	14.6%	13.8%	13.7%	12.8%	12.1%	11.6%	11.5%	11.5%	11.4%	11.1%	10.8%
15～ 64歳	33,490	32,543	31,039	30,297	28,130	26,213	24,776	23,601	22,436	20,805	19,216	17,814	16,746	15,772
	62.1%	61.3%	60.3%	59.8%	57.3%	54.7%	53.5%	53.1%	52.7%	51.2%	49.8%	48.7%	48.5%	48.5%
65歳 以上	10,281	11,522	12,359	12,980	14,137	15,150	15,562	15,457	15,179	15,125	14,940	14,574	13,922	13,220
	19.1%	21.7%	24.0%	25.6%	28.8%	31.6%	33.6%	34.8%	35.7%	37.2%	38.7%	39.9%	40.3%	40.7%

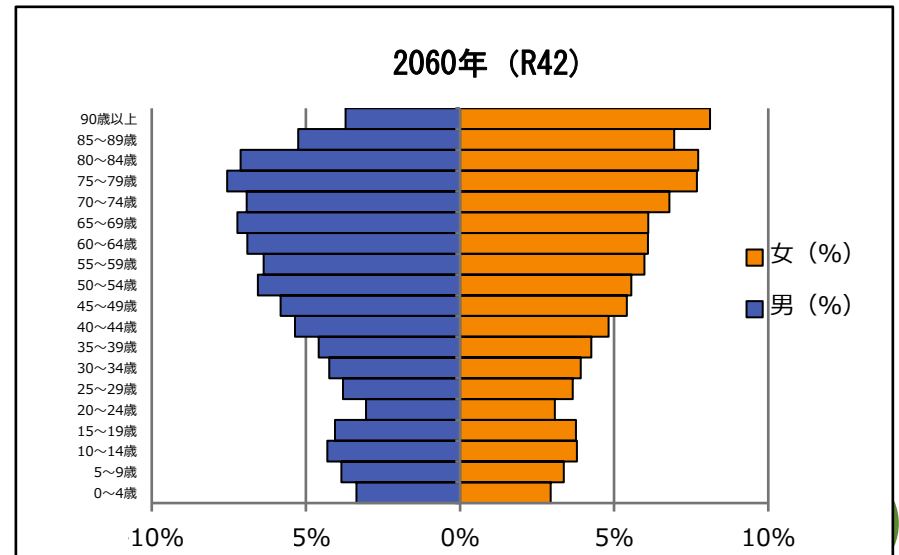
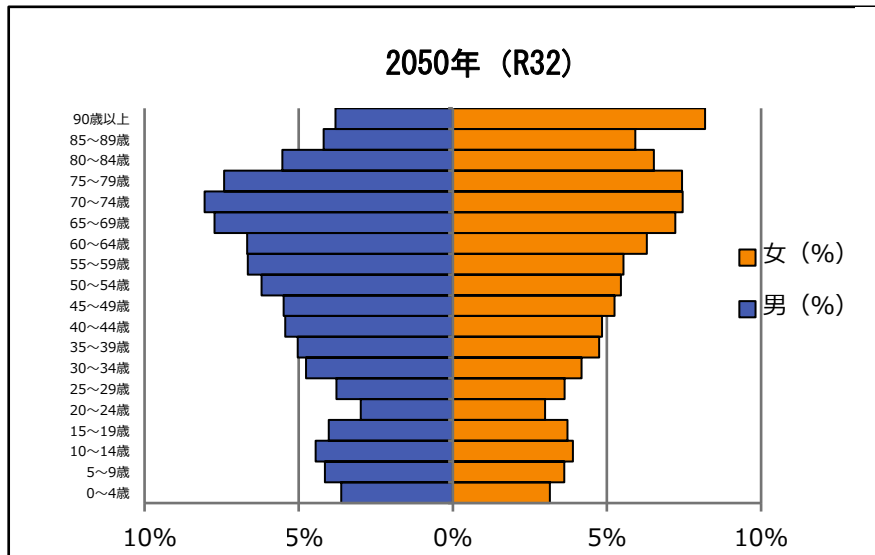
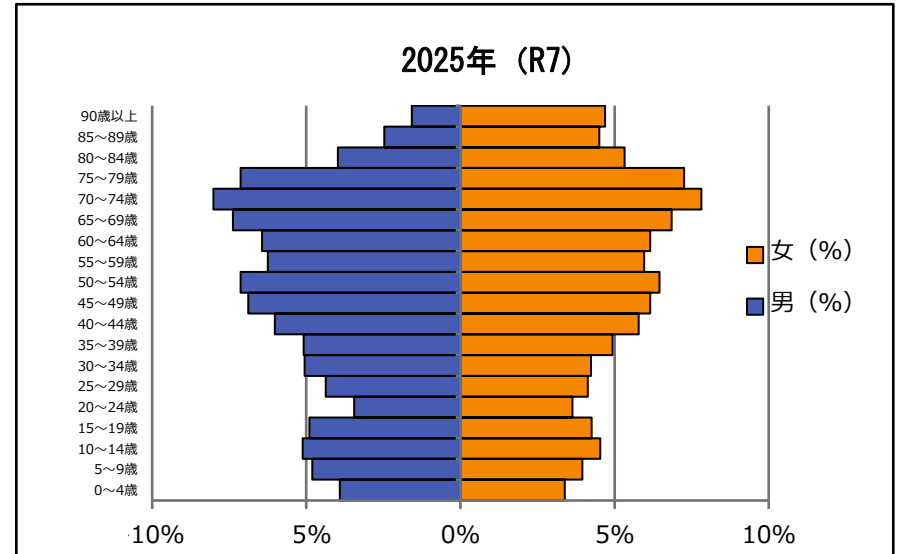
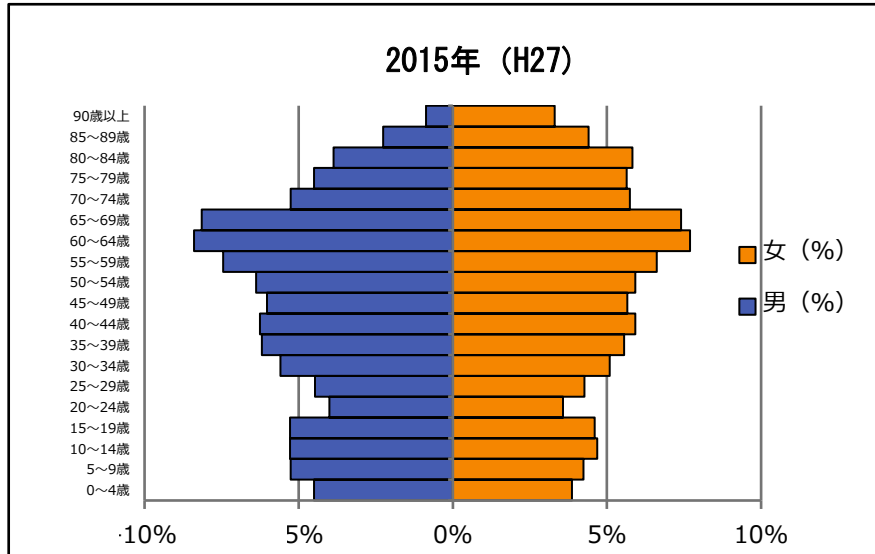
※総数は端数処理の関係で一致しない場合があります
※比率は端数処理の関係で100%とならない場合があります

(出典)「国勢調査(1920(大正9年)～2020(令和2年))」(総務省)

(注) 2025年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供データ(社人研推計準拠)から計上

※全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計

1-(1)-(Ⅲ)人口ピラミッドの推移

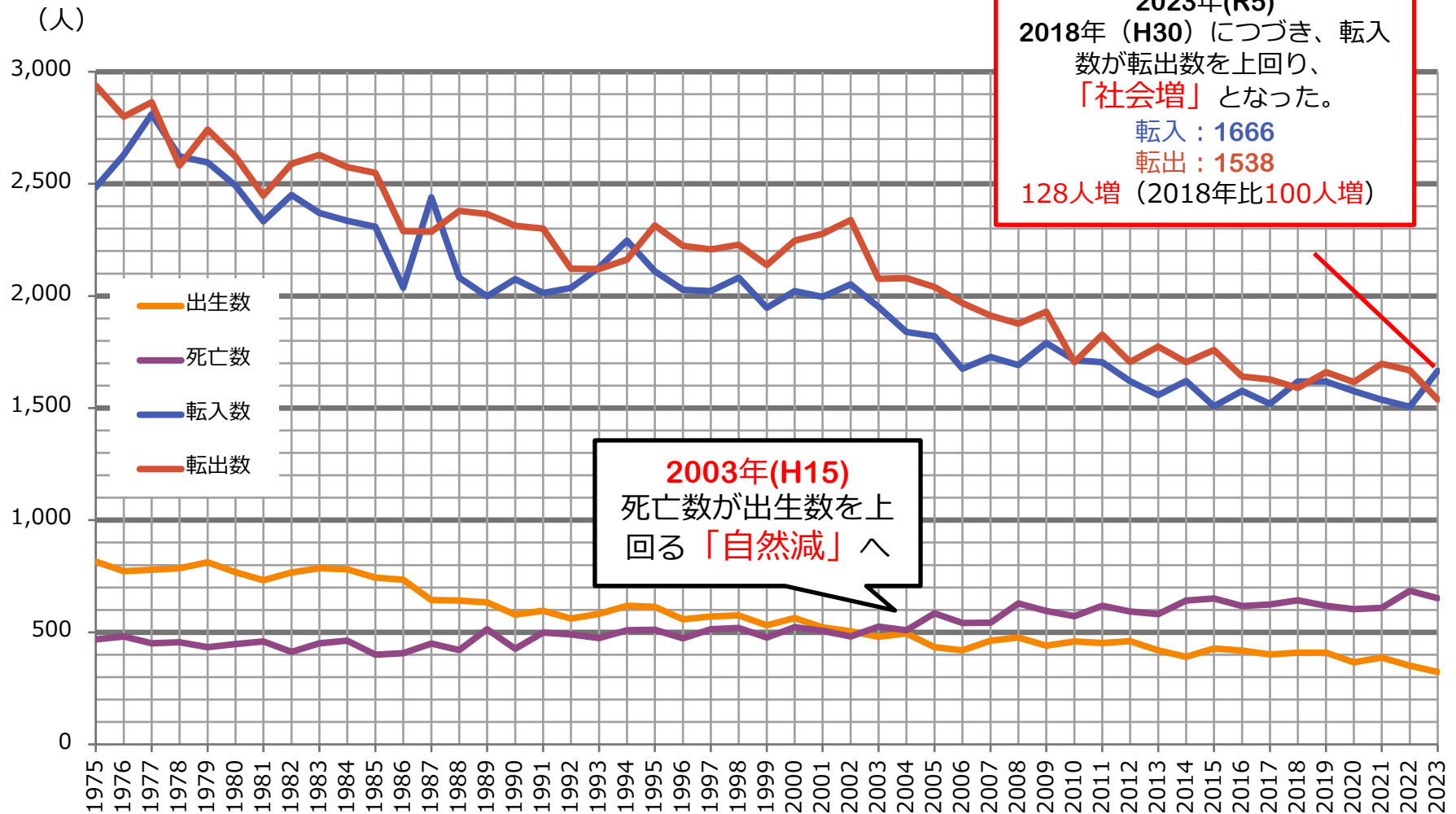


(出典)「国勢調査(1920(大正9年)～2020(令和2年))」(総務省)

(注) 2025年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供データ(社人研推計準拠)から計上

※全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計

1-(1)-(Ⅳ)出生・死亡数、転入・転出数の推移

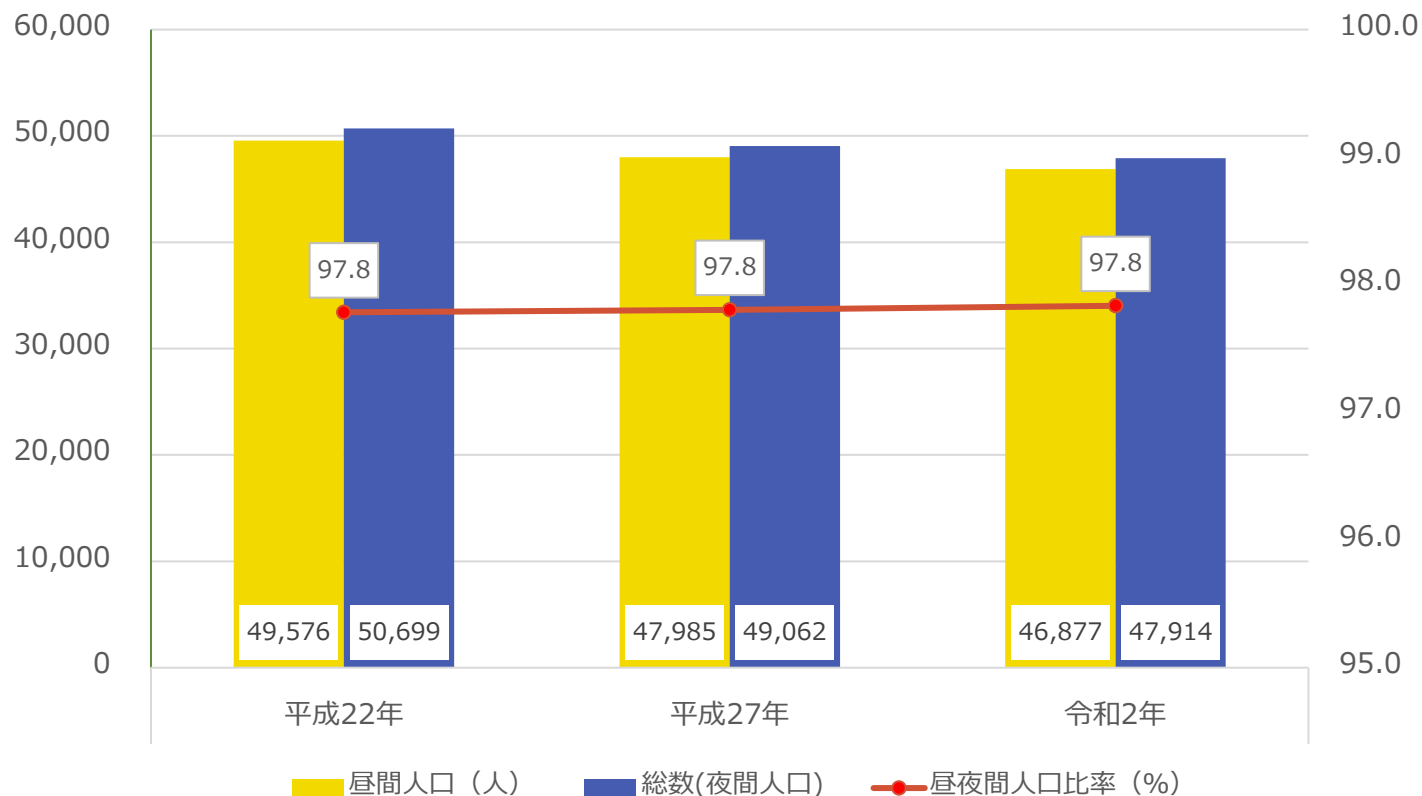


(出典)「佐賀県統計年鑑」(佐賀県)を基に武雄市作成
※2023年は佐賀県人口移動調査第5表を参照

1-(1)-(V) 昼夜間人口比率の推移

昼間人口：人

昼夜間人口比率：%



(昼間人口と夜間人口) ○昼間人口 : 従業地・通学値集計の結果を用いて、次により算出された人口。夜間勤務や夜間学校に通っている人も便宜上、含まれている。
 ○夜間人口 : 調査の時期に調査の地域に常住している人口。
 ○昼間人口の算出方法 : 常住人口(夜間人口) - 流出口 + 流入人口
 ○昼夜間人口比率 : 昼間人口 / 常住人口(夜間人口) × 100

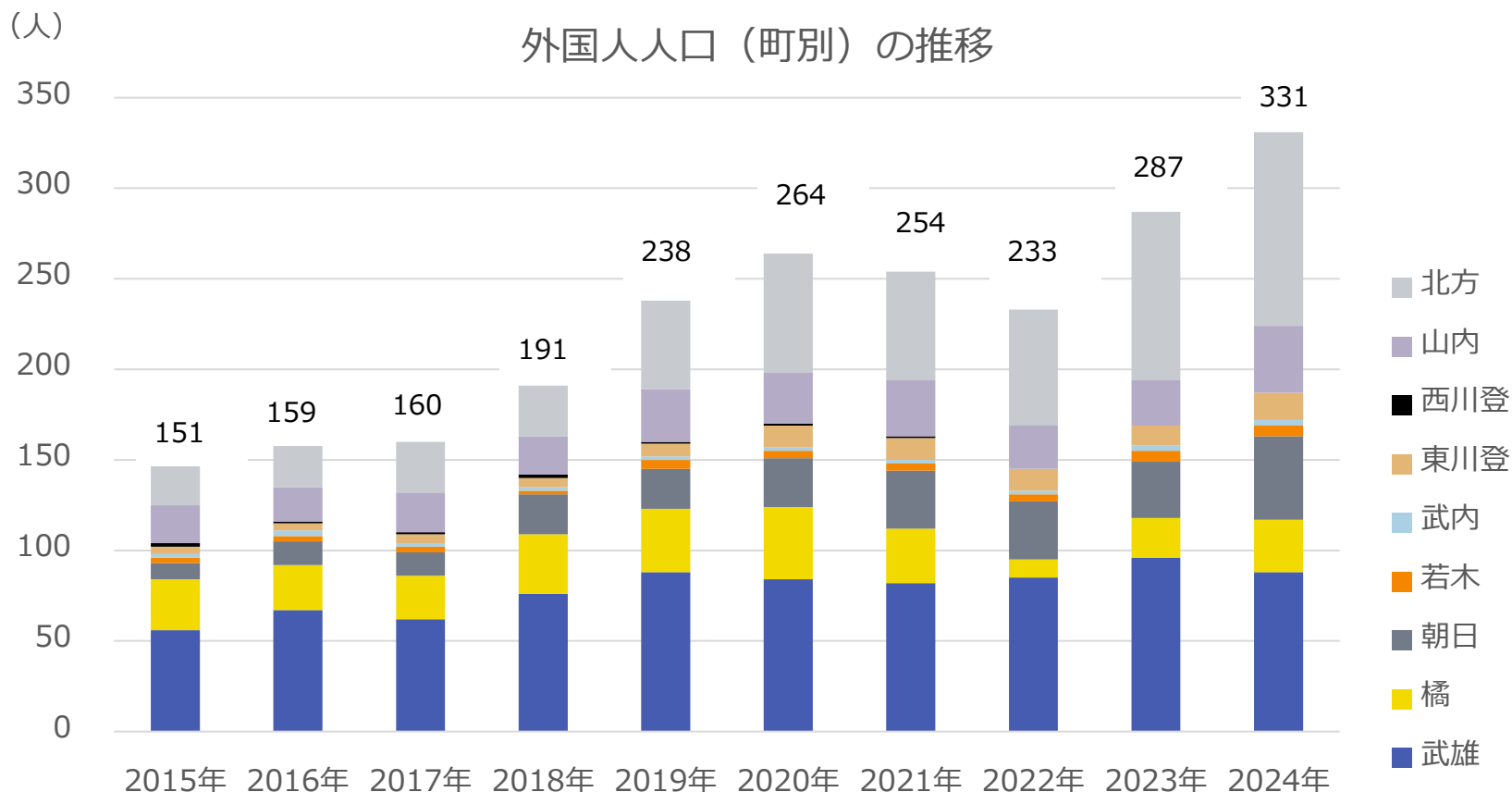
(出典) 「国勢調査(2010(平成22年)～2020(令和2年))」(総務省)

1-(1)-(V) 昼夜間人口比率の推移

		平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
流出数	県内他市区町村で従業・通学	8,850	9,586	9,978
		-	8.32%	4.09%
	他県で従業・通学	911	1,027	1,031
		-	12.73%	0.39%
	合計	9,761	10,613	11,009
		-	8.73%	3.73%
流入数	県内他市区町村に常住	8,072	8,836	9,129
		-	9.46%	3.32%
	他県に常住	566	700	843
		-	23.67%	20.43%
	合計	8,638	9,536	9,972
		-	10.40%	4.57%
流出入超過数		-1,123	-1,077	-1,037
		-	4.10%	3.71%

注) 上段は実数(単位:人)、下段は対前期増減率
(出典)「国勢調査(2010(平成22年)~2020(令和2年))」(総務省)

1-(1)-(VI) 在留外国人数



（出典）「住民基本台帳人口（2015（平成27年）～2024年（令和6年）」
 ※各年9月末人口。西川登町は、令和4年以降は0人

1-(1)-(VI) 在留外国人数

○地域別外国人数

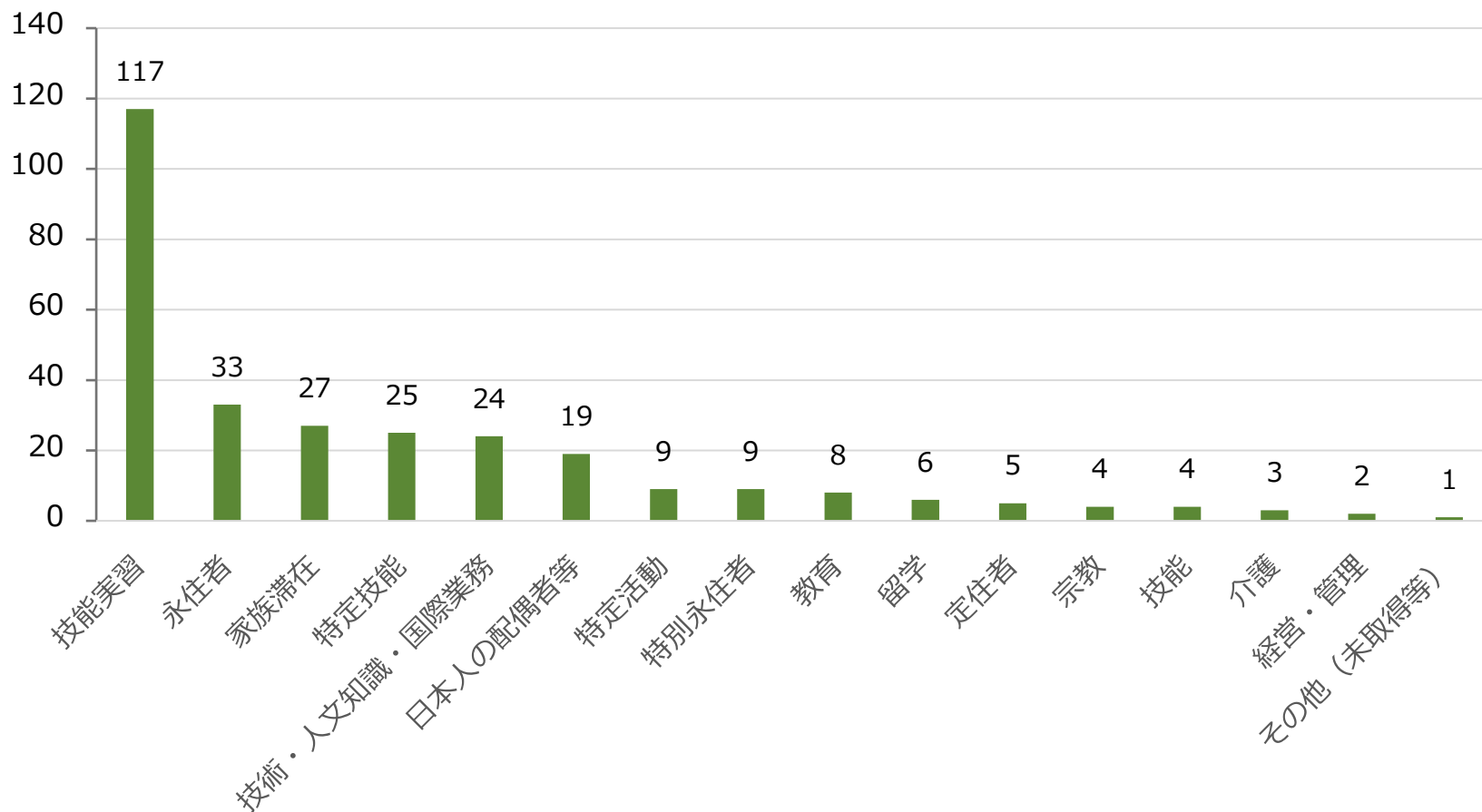
地域名	人数
アジア	275人
北アメリカ	12人
南アメリカ	4人
ヨーロッパ	3人
アフリカ	2人
オセアニア	0人



1-(1)-(VI) 在留外国人数

(人)

外国人人口（在留資格別）



1-(1) 時系列による人口動向 <分析>

1. 総人口の推移

【参照】 1-(1)-(Ⅰ)(Ⅱ)総人口、年齢3区分別人口の推移と将来推計

- ・ 武雄市では1950(S25)年に、約7.1万人とピークを迎えた。
- ・ その後1975(S50)年まで人口減少が続いた。
特に、旧北方町で人口減少(△53.7%)が急激に進行した。
これは昭和30～40年代の相次ぐ炭鉱山の閉鎖の影響によるものと推測される。

※1950 (S25) 年と1975 (S50) 年の各地区の人口推移

○旧武雄市	41,456人⇒34,250人	△7,206人(△17.4%)
○旧山内町	11,260人⇒9,357人	△1,903人(△16.9%)
○旧北方町	18,213人⇒8,434人	△9,779人(△53.7%)

- ・ 昭和50年代(1975～1984)年に、一時的に人口増加するが、それ以降は減少に転じている。



1-(1) 時系列による人口動向＜分析＞

2. 年齢3区分別人口の推移

【参照】 1-(1)-(Ⅰ)(Ⅱ)総人口、年齢3区分別人口の推移と将来推計

＜全体の人口＞

- ・ 全体の人口は、昭和50年代(1975～1984)に一時的に増加するが、全体としては1950(S25)以降、現在まで減少が続いている。

＜各区分の人口＞

- ・ 若年人口（0～14歳）は、減少を続けている。
- ・ 生産年齢人口（15～64歳）は、昭和50年代(1975～1984)に一時的に増加するが、減少傾向が続いている。
- ・ 老年人口は、人口・構成比とも増加している。

※構成比でみると1950(S25)年は5.2%と20人に1人が65歳以上の高齢者であったが、2025(R7)年は33.6%と3人に1人となっている。【Ver.3.0改訂】

＜総括＞

- ・ 武雄市では、若年人口、生産年齢人口とも減少している一方、老年人口は増え続けてきており、少子高齢化と人口減少が同時に進行してきたといえる。
- ・ 老年人口も2025(R7)年には減少に転じ、その後本格的な人口減少時代を迎える見込みである。

1-(1) 時系列による人口動向＜分析＞

3. 出生・死亡、転入・転出の推移

【参照】1-(1)-(Ⅳ)出生・死亡数、転入・転出数の推移

＜自然増減＞

- ・武雄市の自然増減は、出生率の低下・母親世代人口の減少の影響で出生数が減少傾向が続いていたが、2002(H14)年までは平均寿命の伸びを背景に死亡数がそれほど増えず「自然増」であった。
- ・しかし、2003(H15)年以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」の時代に入っている。

(注) 平均寿命については、厚生労働省ホームページを参照。

＜社会増減＞

- ・社会増減は、転出数が転入数を上回る「社会減」の状態が概ね続いている。
- ・**2018年(H30)**は、転入者数が転出者数を上回り、8年ぶりに「社会増」になった。【Ver.2.0追記】
- ・また、**2023年(R5)**も、「社会増」となった。これは**2018年(H30)**年の出入国管理法が改正されたことによる外国人人口の増加や**2022年**の西九州新幹線開業などが影響していると考えられる。【Ver.3.0追記】

※1975(S50)年～2023(R5)年の48年間のうち、「社会増」となった年は7回

1978(S53)、1987(S62)、1993(H5)、1994(H6)、2010(H22)、2018(H30)、2023(R5)

1-(1) 時系列による人口動向＜分析＞

4. 総人口及び年齢3区分別人口の将来推計

【参照】 1-(1)-(Ⅰ)(Ⅱ)総人口、年齢3区分別人口の推移と将来推計
1-(1)-(Ⅳ)出生・死亡数、転入・転出数の推移

- ・ 社人研の推計によれば、今後、人口は急速に減少を続け、2060(R42)年には3.2万人(2015年比約35%減)になると推計されている。

【Ver.3.0改訂】

- ・ 老年人口は2025年(R7)まで増加を続けるが、以降、若年人口、生産年齢人口とともに、全ての年齢区分が減少に転じる。
長期的にみると転出が転入を上回る「社会減」と、死亡数が出生数を上回る「自然減」の状態が続いており、今後、母親世代人口の減少、低出生率の継続が予想されることが、人口減の要因であると考えられる。
- ・ 2023年(R5)は転入が転出を上回る「社会増」となった。これまでの取り組みに加え、2022年(R4)9月の新幹線開業に合わせて取り組んだ移住定住施策などや、同年10月に外国人の新規入国規制が緩和されたことなどによる外国人の転入者増などが要因であると考えられる。

【Ver.3.0改訂】

1-(1) 時系列による人口動向 <分析>

5. 昼夜間人口比率の推移

【参照】 1-(1)-(V) 昼夜間人口比率の推移

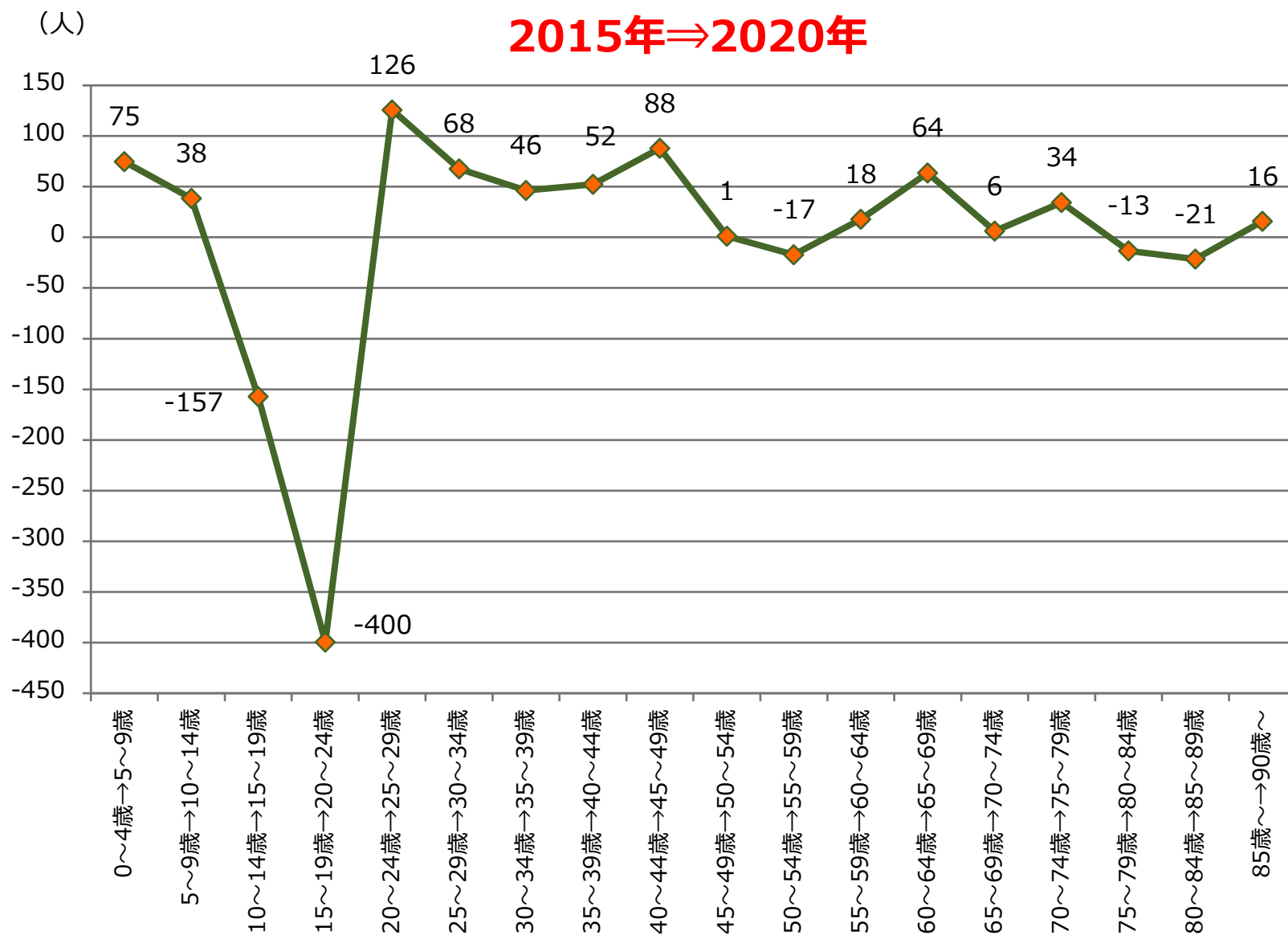
- ・ 武雄市の昼間人口と夜間人口の比率は97.8%で推移している。
- ・ 市外からの流入数、流出数ともに増加している。また、流入数と流出数の差が縮小していることがわかる。

6. 在留外国人の推移

【参照】 1-(1)-(VI) 在留外国人数の推移

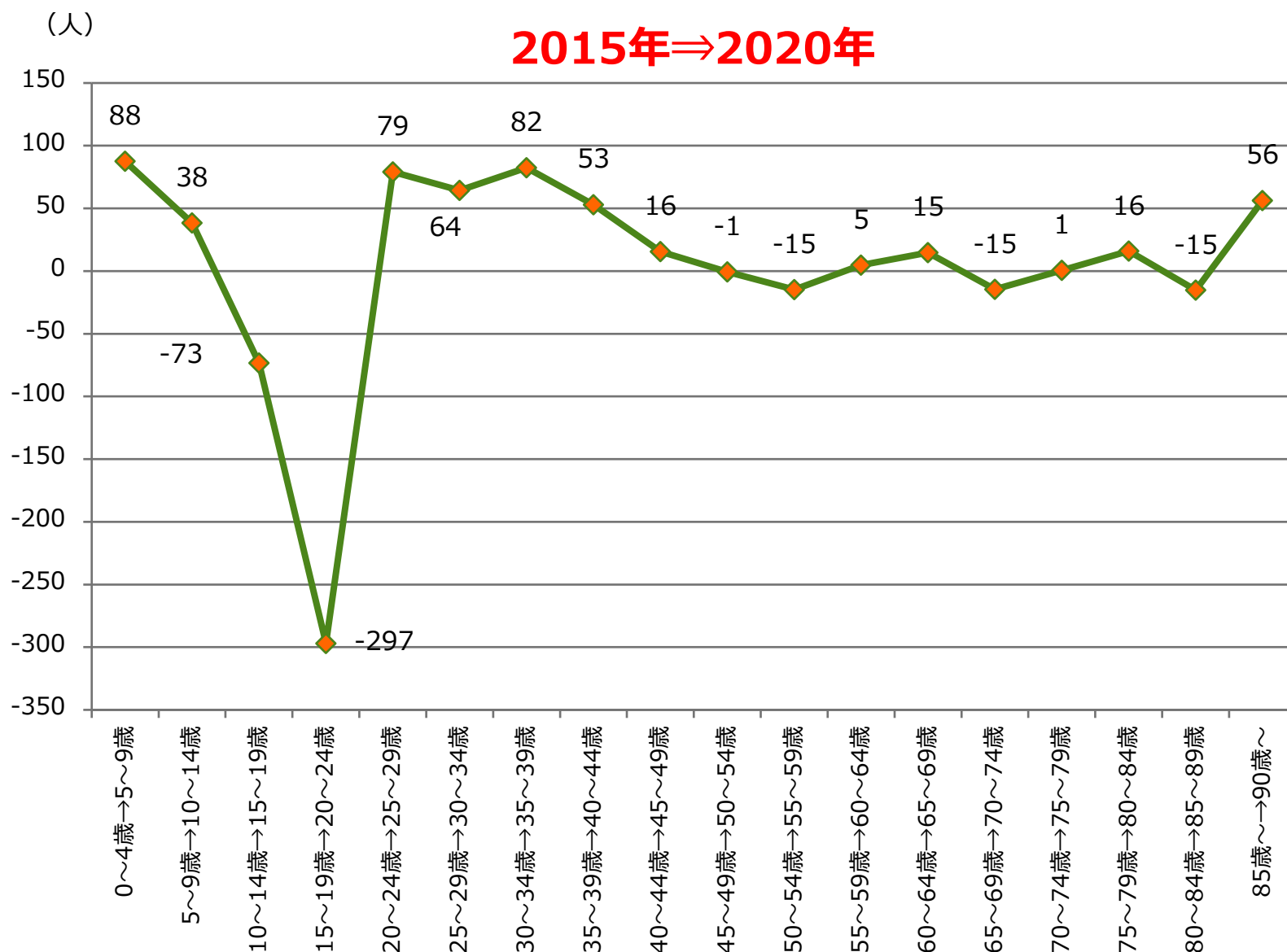
- ・ 武雄市の在留外国人人口は2021年(R3)、2022年(R4)で一時減少したものの、2024年(R6)年には2015年(H27)と比較して倍以上に増えている。
- ・ また、居住者数には町で差があり、地域別でみるとアジア、在留資格別でみると技能実習が多い。

1-(2)-(I)性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況（男性）



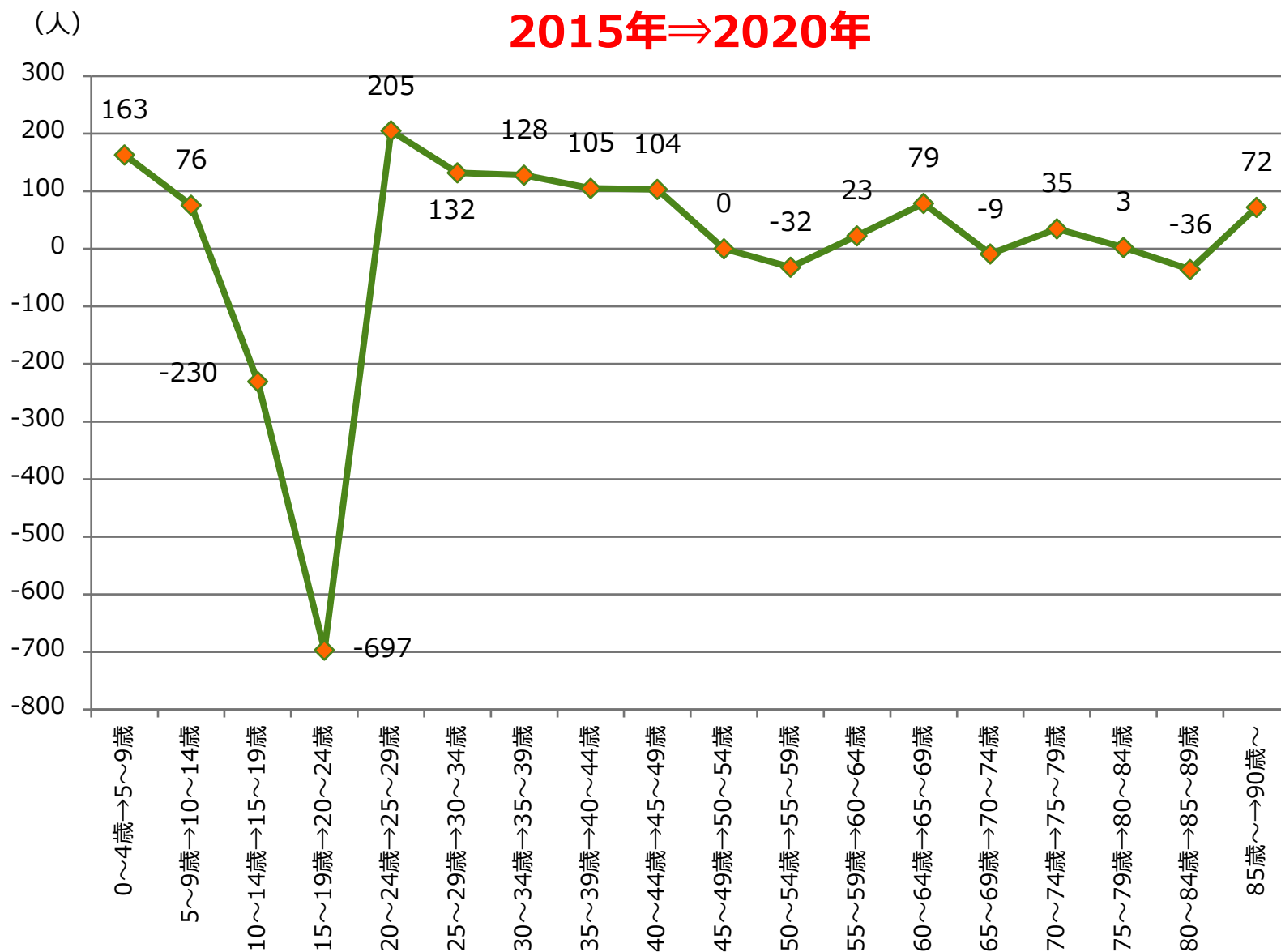
(出典) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に武雄市作成

1-(2)-(I)性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況（女性）



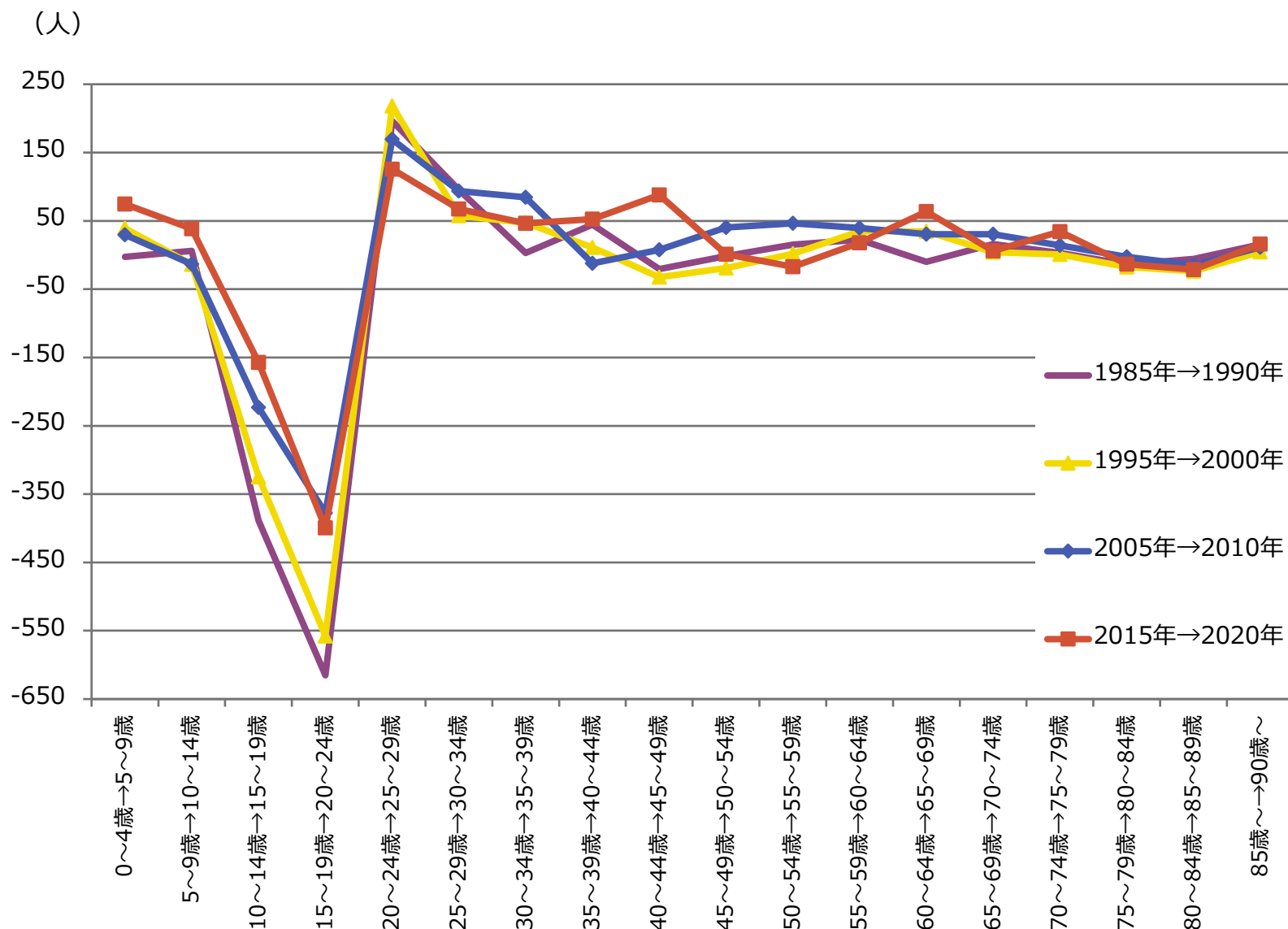
(出典) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に武雄市作成

1-(2)-(I)性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況（男女計）



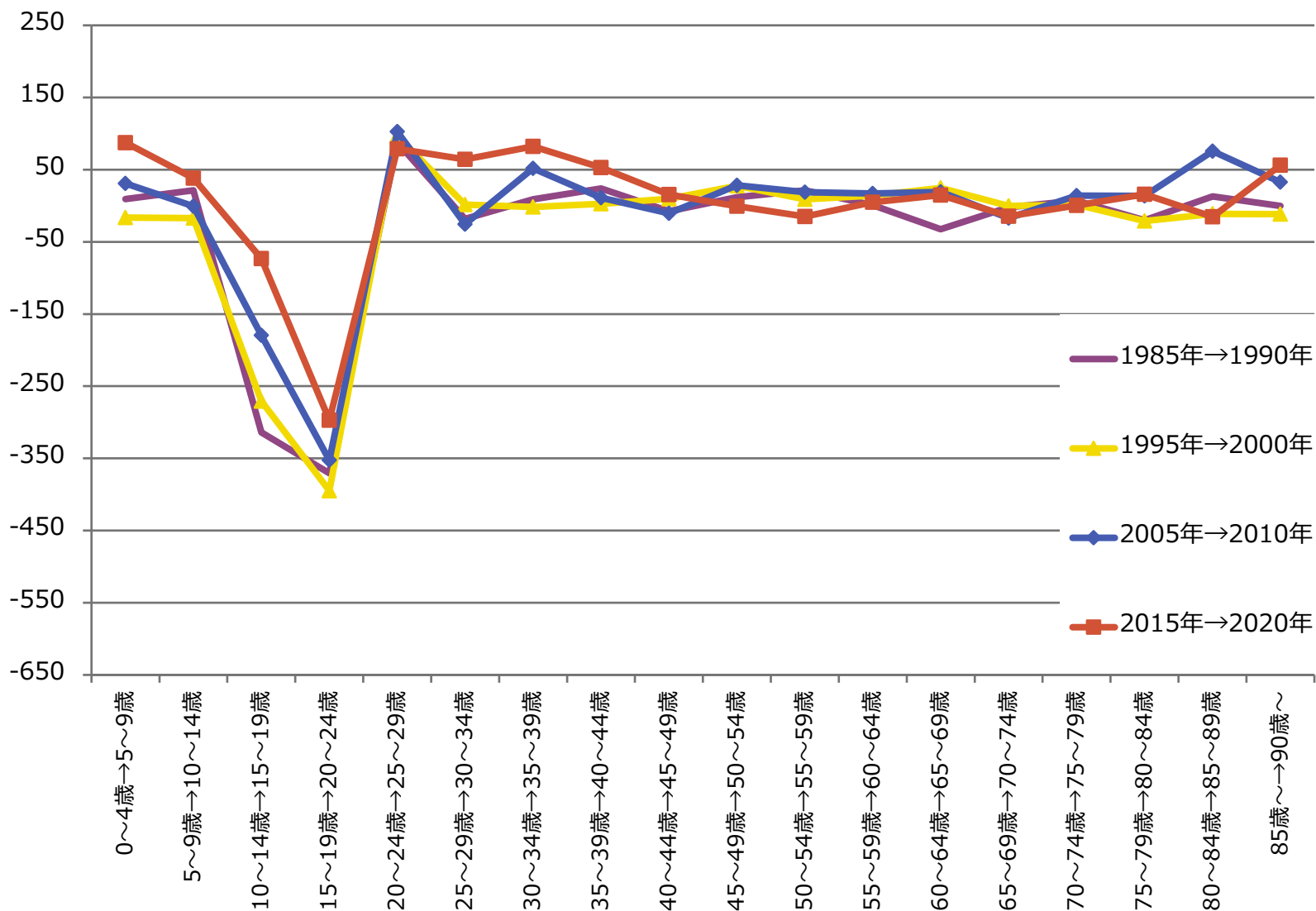
(出典) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に武雄市作成

1-(2)-(Ⅱ)性別・年齢階級別の人口移動の長期的動向（男性）

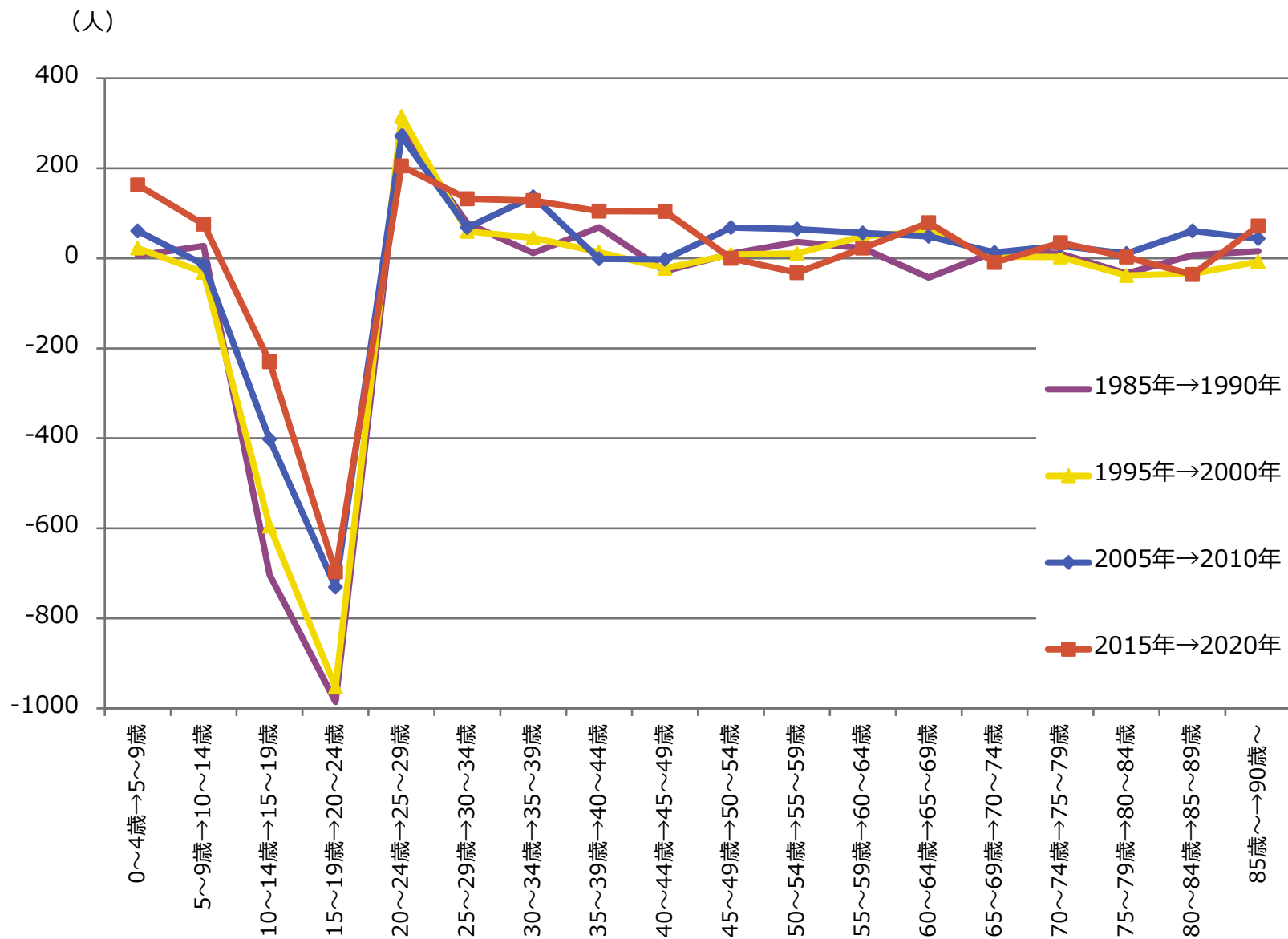


1-(2)-(Ⅱ)性別・年齢階級別の人口移動の長期的動向（女性）

(人)



1-(2)-(Ⅱ)性別・年齢階級別の人口移動の長期的動向（男女計）



1-(2) 年齢階級別の人口移動＜分析＞

1. 性別・年齢階級別人口移動の最近の状況

【参照】 1-(2)-(Ⅰ)性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況

- ・ 2015(H27)年～2020(R2)年における人口移動においては、10～14歳から15～19歳になるとき、および、15～19歳から20～24歳になるときに大幅な転出超過である。

これは高校卒業後の進学、就職に伴う転出の影響が考えられる。

【Ver.3.0改訂】

- ・ 20～24歳から25～29歳になるとき、転入超過となるが、これは大学卒業後のUターン就職等に伴うものと考えられる。

しかしながら、高校卒業後の転出数の1/4～1/5程度の転入数にとどまり、結果として社会減が進んでいる。 【Ver.3.0改訂】

2. 年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向

【参照】 1-(2)-(Ⅱ)性別・年齢階級別の人口移動の長期的動向

- ・ 年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向を見た場合、高校卒業後の進学、就職に伴い転出数が増加し、大学卒業後にUターン就職等で転入数が増加するという傾向が長期的に続いている。
- ・ しかしながら、高校卒業後の転出者数が、大学卒業後の転入者数を上回っており、人口の社会減の状況が長期にわたり進行している。

2-(1)-(I) 武雄市の人口減少段階

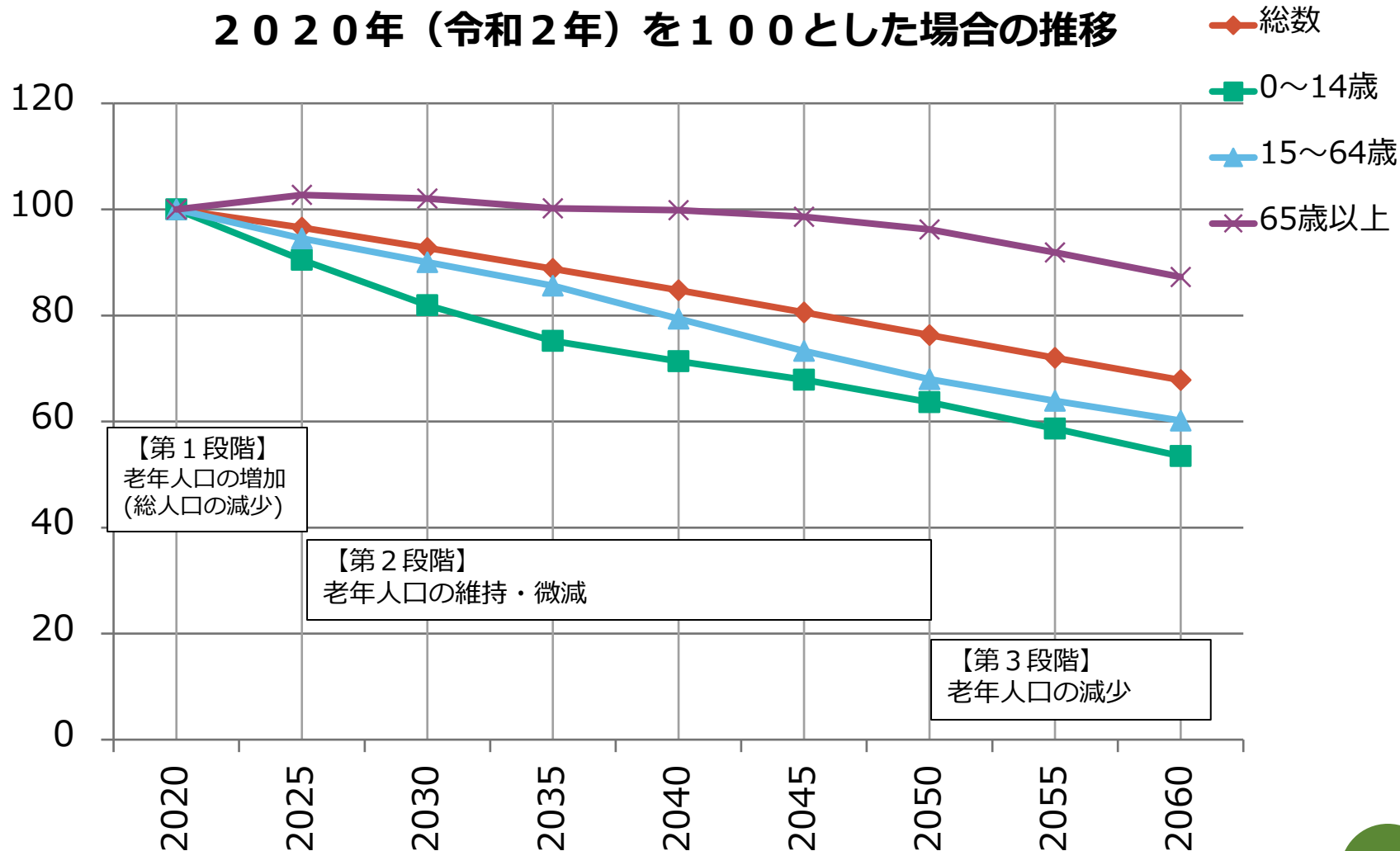
	2020年	2050年	2020年を100 とした場合の 2050年の指数	人口減少 段階
老年人口	15,150人 (31.6%)	14,574人 (39.9%)	96	第1段階 【老年人口の 増加（総人口 の減少）】
生産年齢人口	26,213人 (54.7%)	17,814人 (48.7%)	68	
年少人口	6,551人 (13.7%)	4,168人 (11.4%)	64	
計	47,914人	36,556人	76	

【参考】人口減少は以下の3つの段階を経て進行するとされている。

- 第1段階：老年人口の増加（総人口の減少）
- 第2段階：老年人口の維持・微減
- 第3段階：老年人口の減少

（出典）「日本の将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）を基に武雄市作成

2-(1)-(Ⅱ)武雄市の人口減少段階の推移



(出典) 国勢調査（総務省）

(注) 2025年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供データ（社人研推計準拠）から計上

※全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計

2-(1) 将来人口推計＜分析＞

1. 人口減少段階

【参照】 2-(1)-(Ⅱ)武雄市の人口減少段階
2-(1)-(Ⅳ)武雄市の人口減少段階の推移

- ・ 社人研推計※によると、武雄市の人口段階は「第1段階：老年人口の増加（総人口の減少）」に該当する。
- ・ 2025年に老年人口の維持・微減段階である「第2段階」に突入し、2050年には老年人口の減少である「第3段階」となる見込みである。
【Ver.3.0改訂】

2-(2)-(I) 将来人口における自然増減の影響度、社会増減の影響度

分類	計算方法	影響度
自然増減 の影響度	シミュレーション1の2050年の人口推計 = 37,873人 社人研推計の2050年の推計人口 = 36,556人 $37,873人 / 36,556人 = 103.60\%$	2
社会増減 の影響度	シミュレーション2の2050年推計人口 = 38,423人 シミュレーション1の2050年の推計人口 = 37,873人 $38,423人 / 37,873人 = 101.45\%$	2

(出典) 内閣府地方創生本部提供資料を基に武雄市作成

影響度・・・5段階で評価。

⇒ 1 (100%未満)、2 (100～105%)、3 (105～110%)、4 (110～115%)、5 (115%以上)

自然増減影響度が「3」、「4」、「5」と上がるにつれて、出生率を上昇させる施策に取り組むことが、人口減少度合いを抑える上でより効果的である。

社会増減影響度が「3」、「4」、「5」と上がるにつれて、人口の社会増をもたらす施策に取り組むことが、人口減少度合いを抑える上でより効果的である。

※パターン1：全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠）

※シミュレーション1：仮に、合計特殊出生率が2035年（R17）までに、人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.07）まで上昇したとした場合のシミュレーション

※シミュレーション2：仮に、合計特殊出生率が2035年（R17）までに、人口置換水準（2.07）まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした場合（転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合）のシミュレーション

2-(2) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度＜分析＞

1. 自然増減、社会増減の影響度の分析

【参照】2-(2)-(I)将来人口における自然増減の影響度、社会増減の影響度

・武雄市では、

自然増減の影響度が「2（影響度100～105%） **103.60%**」、

社会増減の影響度が「2（影響度100～105%） **101.45%**」

であり、出生率の上昇につながる施策により力を入れつつ、人口の社会増をもたらす施策と総合的・一体的に取り組むことが人口減少度合いを抑えること、さらには歯止めをかける上で効果的であると考えられる。【Ver.3.0改訂】

影響度・・・5段階で評価。

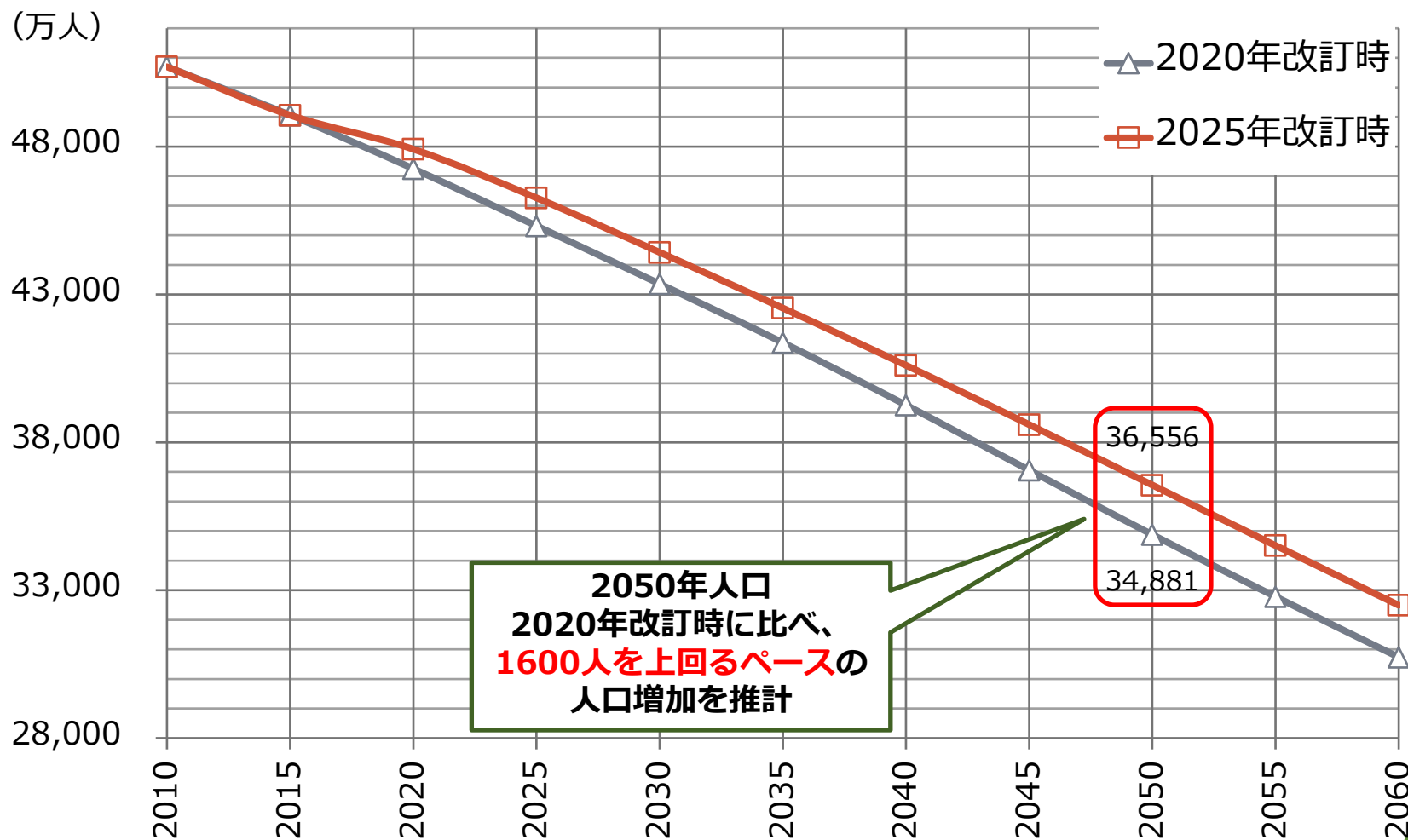
⇒ 1（100%未満）、2（100～105%）、3（105～110%）、4（110～115%）、5（115%以上）

自然増減影響度が「3」、「4」、「5」と上がるにつれて、出生率を上昇させる施策に取り組むことが、人口減少度合いを抑える上でより効果的である。

社会増減影響度が「3」、「4」、「5」と上がるにつれて、人口の社会増をもたらす施策に取り組むことが、人口減少度合いを抑える上でより効果的である。

【人口ビジョン2020年（Ver.2.0）と2025年（Ver.3.0）の比較】

3-(1) 総人口の将来推計比較



(出典) 「国勢調査（1920（大正9年）～2020（令和2年））」（総務省）

(注) 2020年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供データ（社人研推計準拠）から計上

※2020年の人口はVer.2.0では出典元が住民基本台帳データ（2015.2.28時点）、Ver.3.0では出典元が国勢調査人口のため相違。

※全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠）

【人口ビジョン2020年（Ver.2.0）と2025年（Ver.3.0）の比較】

3-(2) 総人口年齢3区分別人口の将来推計比較

		2010 平成22	2015 平成27	2020 令和2	2025 令和7	2030 令和12	2035 令和17	2040 令和22	2045 令和27	2050 令和32	2055 令和37	2060 令和42
総数	2020改訂時	50,699	49,062	47,253	45,320	43,360	41,373	39,262	37,061	34,881	32,781	30,738
	2025改訂時	50,699	50,147	47,914	46,267	44,426	42,541	40,605	38,602	36,556	34,512	32,495
	増減	-	-	661	947	1066	1168	1343	1541	1674	1731	1757
0～ 14歳	2020改訂時	7,422	6,795	6,351	5,857	5,472	5,114	4,827	4,540	4,250	3,960	3,690
	2025改訂時	7,422	7,026	6,551	5,929	5,368	4,926	4,676	4,446	4,168	3,843	3,503
	増減	-	-	200	72	▲ 104	▲ 188	▲ 151	▲ 94	▲ 82	▲ 117	▲ 187
15～ 64歳	2020改訂時	30,297	28,130	25,774	24,003	22,562	21,182	19,546	18,034	16,694	15,711	14,746
	2025改訂時	30,297	29,260	26,213	24,776	23,601	22,436	20,805	19,216	17,814	16,746	15,772
	増減	-	-	439	773	1039	1254	1259	1182	1120	1035	1026
65歳 以上	2020改訂時	12,980	14,137	15,128	15,461	15,326	15,078	14,890	14,488	13,937	13,110	12,301
	2025改訂時	12,980	13,861	15,150	15,562	15,457	15,179	15,125	14,940	14,574	13,922	13,220
	増減	-	-	22	101	131	101	235	452	634	812	919

※総数は端数処理の関係で一致しない場合があります

（出典）「国勢調査（1920（大正9年）～2020（令和2年））」（総務省）

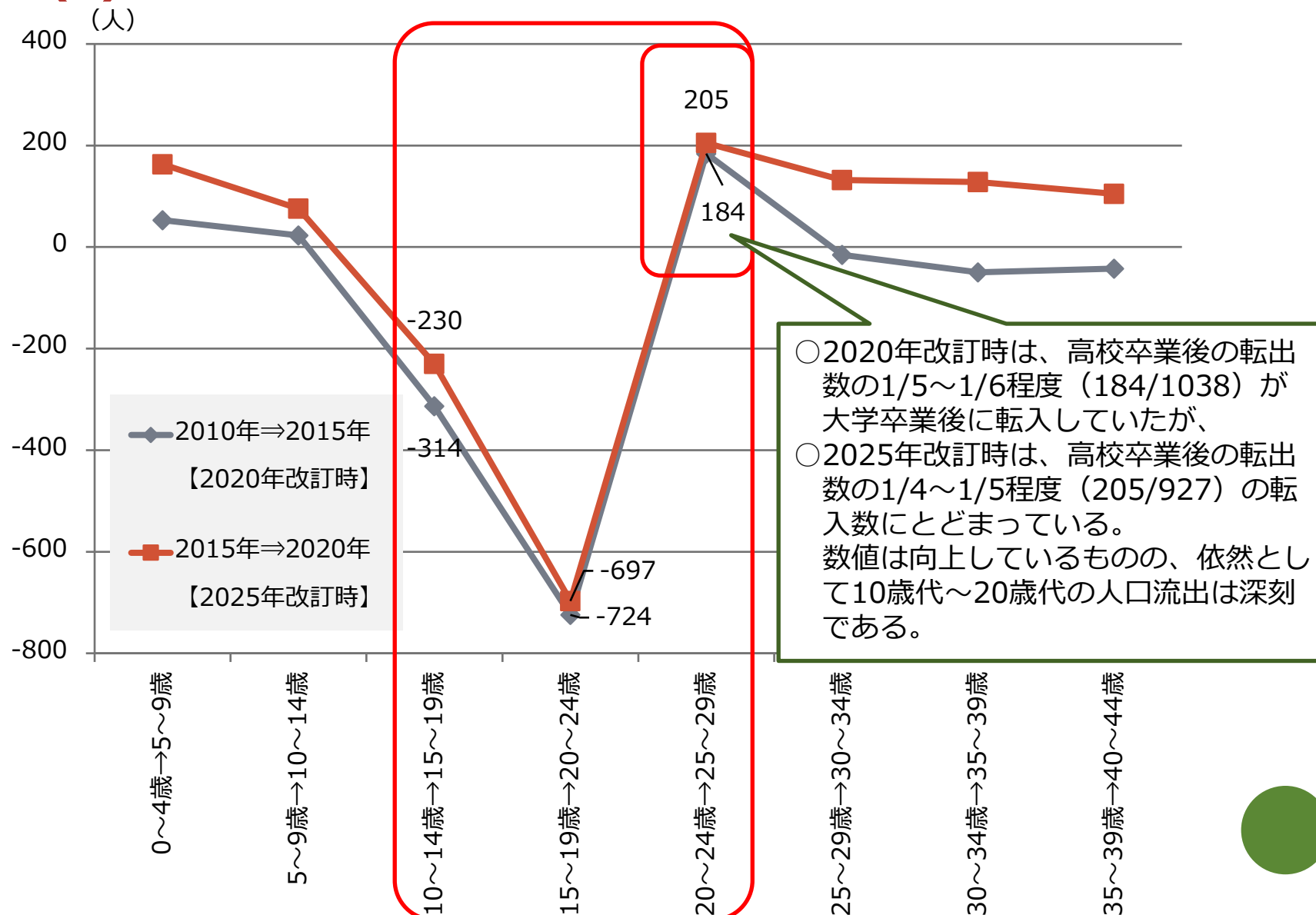
（注）2025年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供データ（社人研推計準拠）から計上

※2020年の人口はVer.2.0では出典元が住民基本台帳データ（2020.2.28時点）、Ver.3.0では出典元が国勢調査人口のため相違。

※全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計

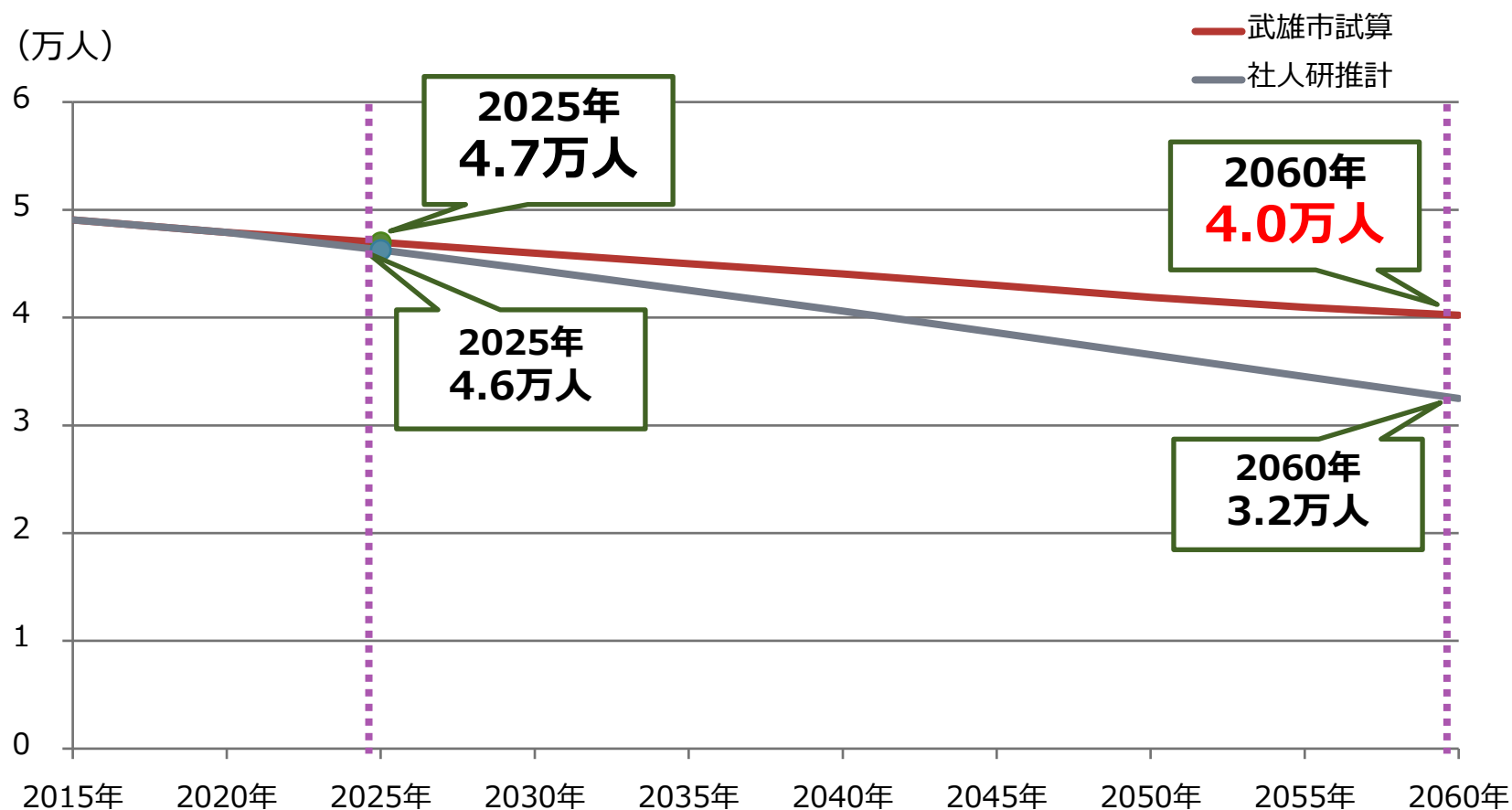
【人口ビジョン2020年（VER.2.0）と2025年（VER.3.0）の比較】

3-(3) 年齢階級別の人口移動の最近の状況（男女計）



【将来人口の目標】

4 -(1) 将来人口の目標（市全体の総人口）



（出典）

2025年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供データ（国立社会保障・人口問題研究所推計準拠）から計上

※全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計

（武雄市試算）

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に武雄市試算

※合計特殊出生率が2030年に1.90、2035年に2.07（人口置換水準）となると仮定し、人口移動の純移動率は2040年までは社人研の人口推計の1/2、2045までは1/4、それ以降は等しく推移した場合として推計している。

【将来人口の目標】

4 -(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計

【武雄町】

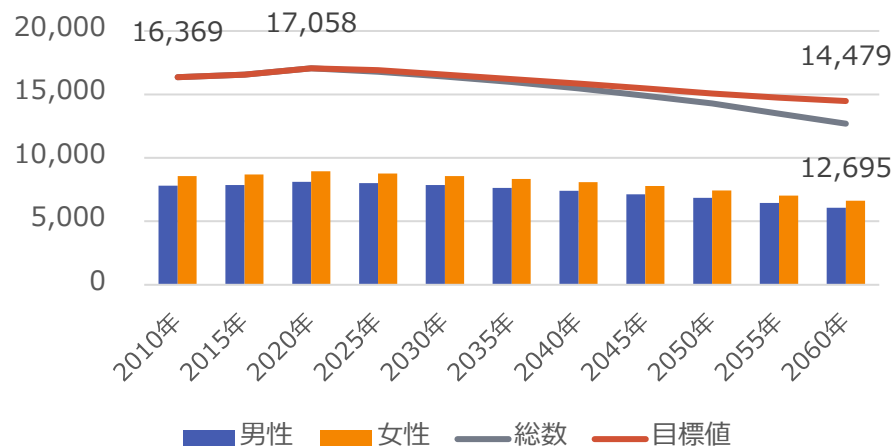
武雄町は、2020年時点の市内総人口に占める割合が36パーセントとなっている。

2020年の人口は、2010年より689人増加し17,058人となったが、2060年には、4,363人減少し12,695人となる見込みである。

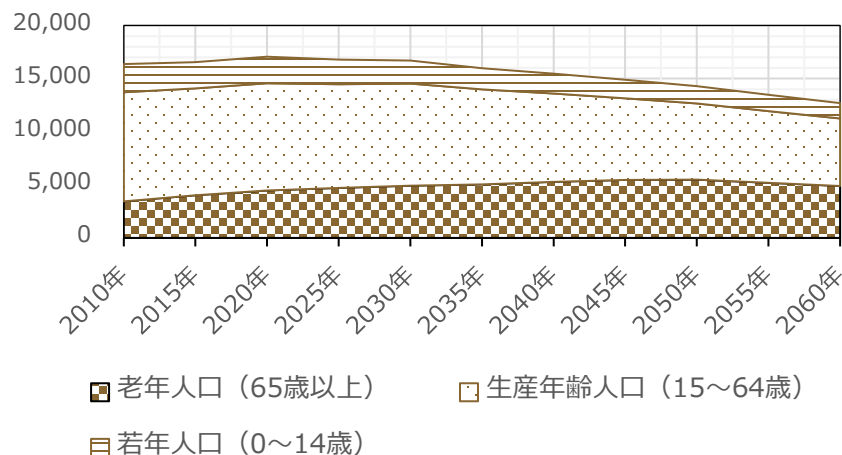
若年人口および生産年齢人口はともに減少傾向であり、特に生産年齢人口は2060年には4,000人近く減少する見込みである。

一方で、老年人口は2050年までは増加し、その後は減少すると見込まれる。

人口推移



年齢3区分別人口



【将来人口の目標】

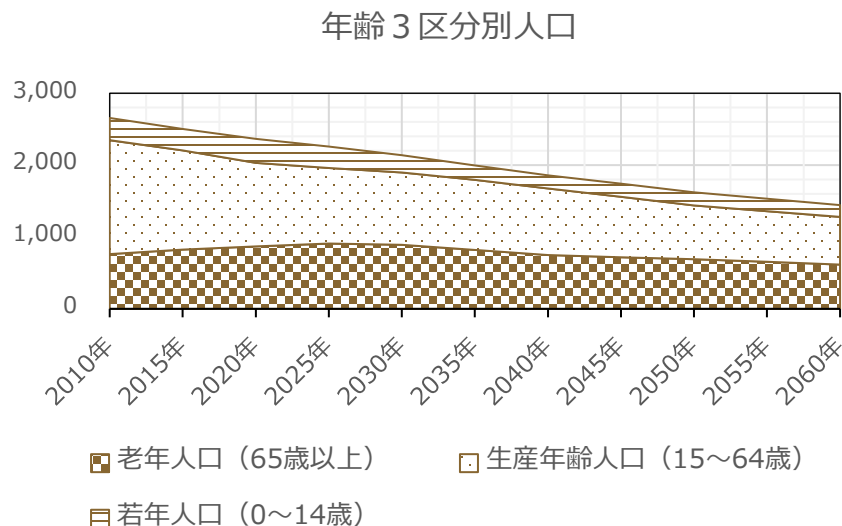
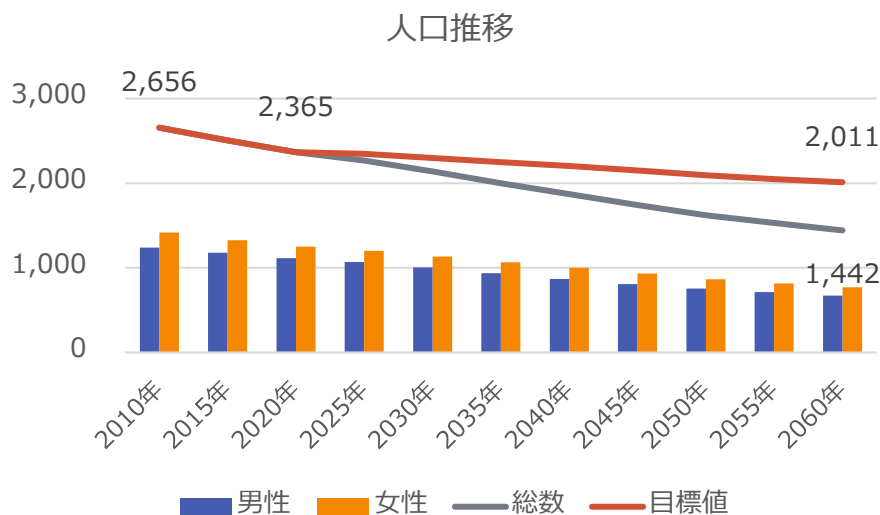
4 -(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計

【橘町】

橘町は、2020年時点の市内総人口に占める割合が5パーセントとなっている。

総人口は減少傾向が続いており、2060年には、923人減少し1,442人となる見込みである。

若年人口および生産年齢人口はともに減少傾向であり、老年人口も2025年以降は同様に減少見込みである。2060年には生産年齢人口と老年人口がほぼ同数になると見込まれる。



4 -(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計

【朝日町】

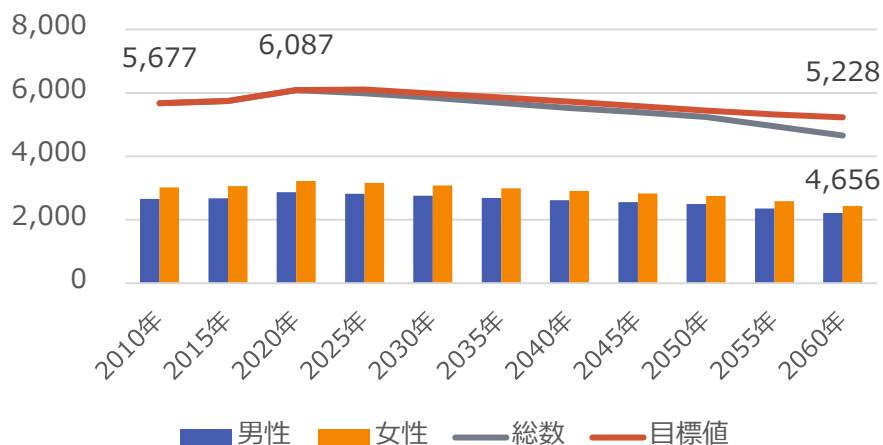
朝日町は、2020年時点の市内総人口に占める割合が13パーセントとなっている。

2020年の人口は、2010年より410人増加し6,087人となったが、2060年には、1,431人減少し4,656人となる見込みである。

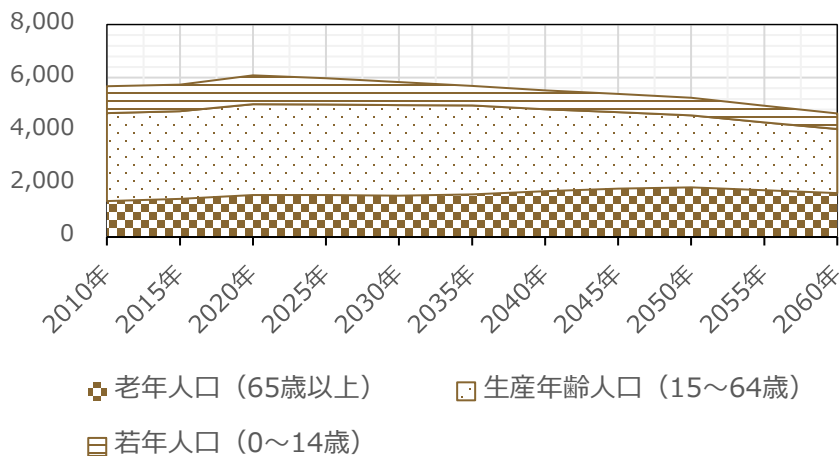
若年人口および生産年齢人口はともに減少傾向であり、特に若年人口は2060年には半数近く減少する見込みである。

一方で、老年人口は2050年までは増加し、その後は減少すると見込まれる。

人口推移



年齢3区分別人口



【将来人口の目標】

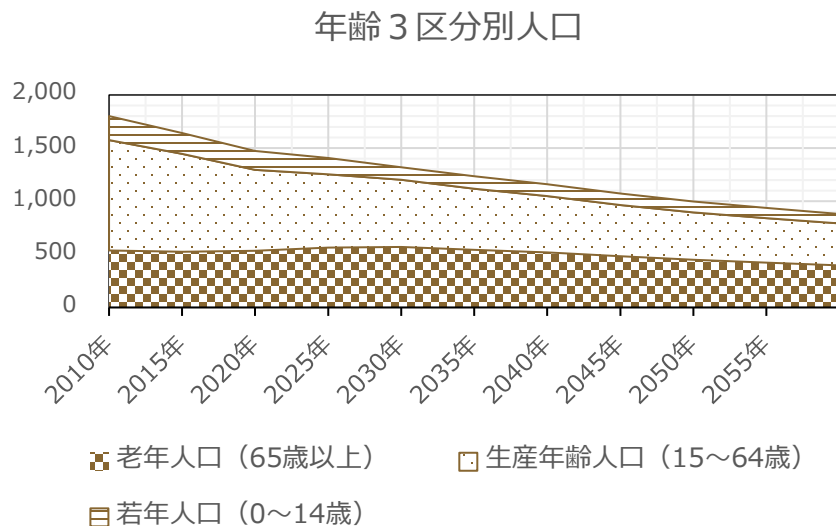
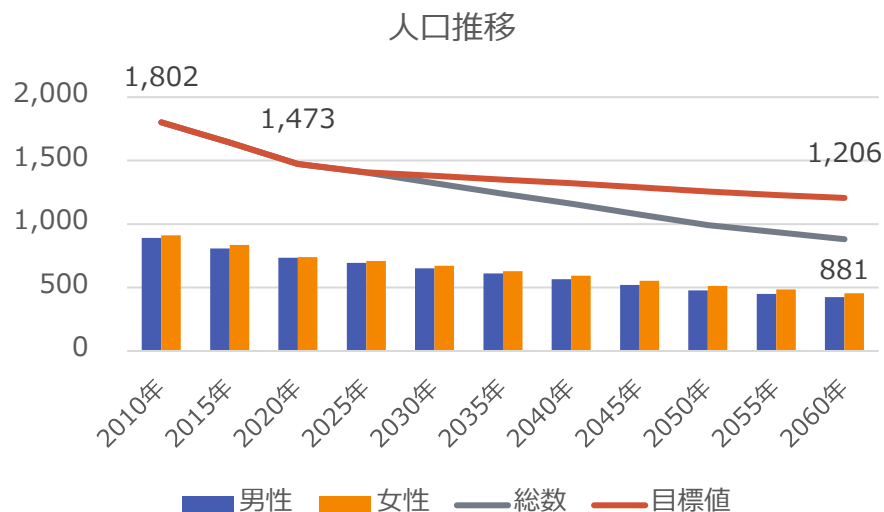
4 -(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計

【若木町】

若木町は、2020年時点の市内総人口に占める割合が3パーセントとなっている。

総人口は減少傾向が続いており、2060年には、592人減少し1,206人となる見込みである。

若年人口および生産年齢人口はともに減少傾向であり、老年人口も2030年以降は同様に減少見込みである。2060年には生産年齢人口と老年人口がほぼ同数になると見込まれる。



【将来人口の目標】

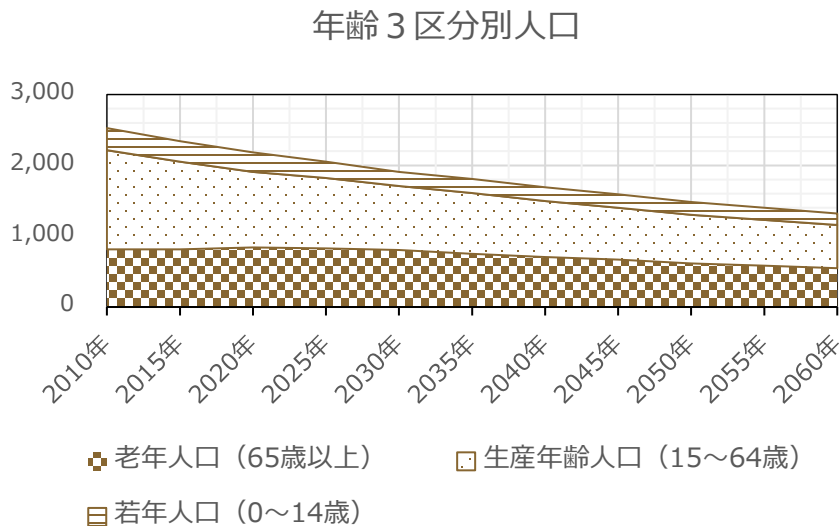
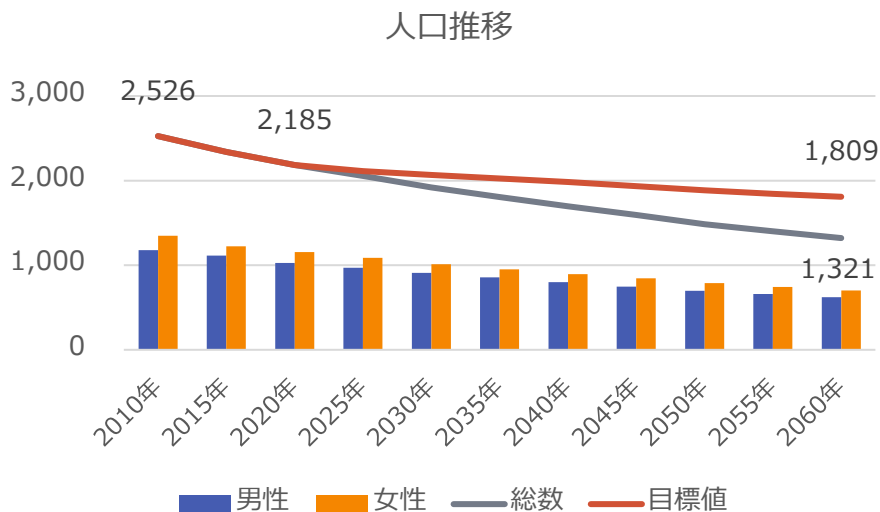
4 -(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計

【武内町】

武内町は、2020年時点の市内総人口に占める割合が5パーセントとなっている。

総人口は減少傾向が続いており、2060年には、864人減少し1,321人となる見込みである。

年齢3区分別人口の全区分で減少傾向となる見込みである。



【将来人口の目標】

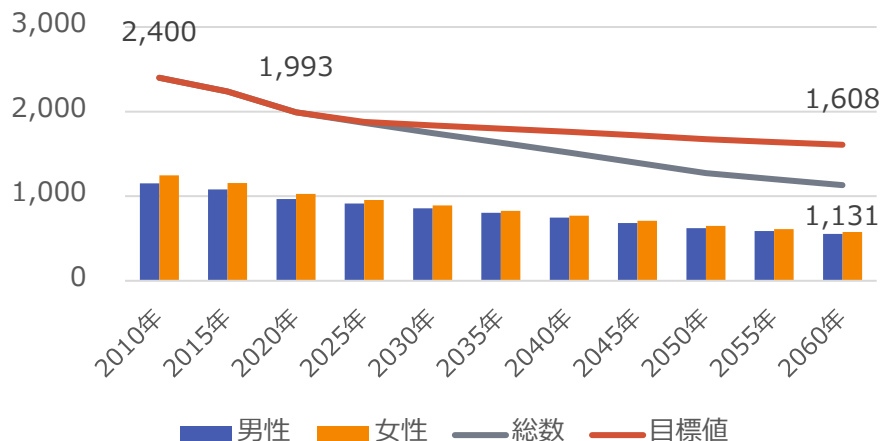
4 -(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計

【東川登町】

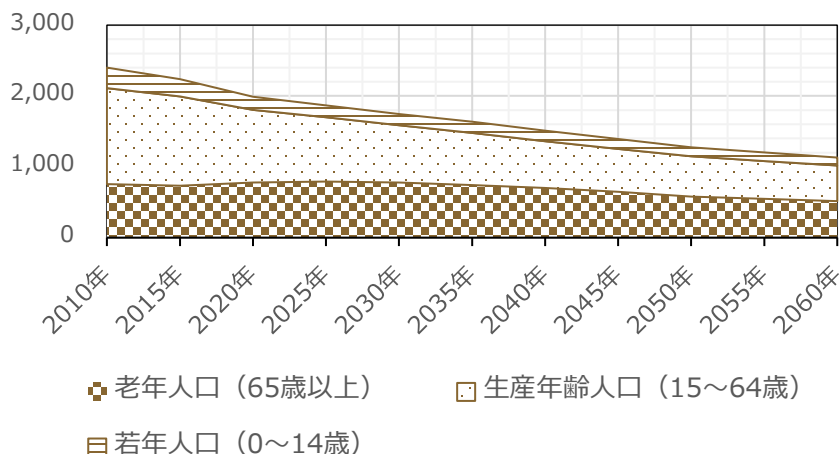
東川登町は、2020年時点の市内総人口に占める割合が4パーセントとなっている。
総人口は減少傾向が続いており、2060年には、862人減少し1,131人となる見込みである。

若年人口および生産年齢人口はともに減少傾向であり、老年人口も2025年以降は同様に減少見込みである。
また、2035年には生産年齢人口と老年人口がほぼ同数になると見込まれる。

人口推移



年齢3区分別人口



4 -(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計

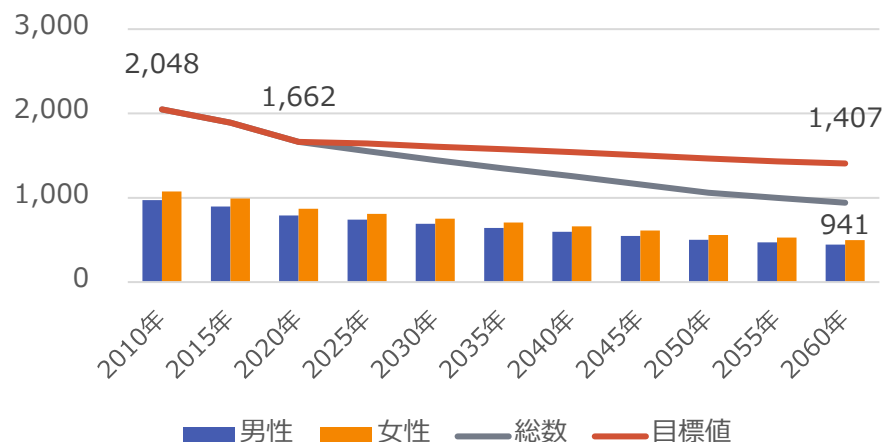
【西川登町】

西川登町は、2020年時点の市内総人口に占める割合が3パーセントとなっている。

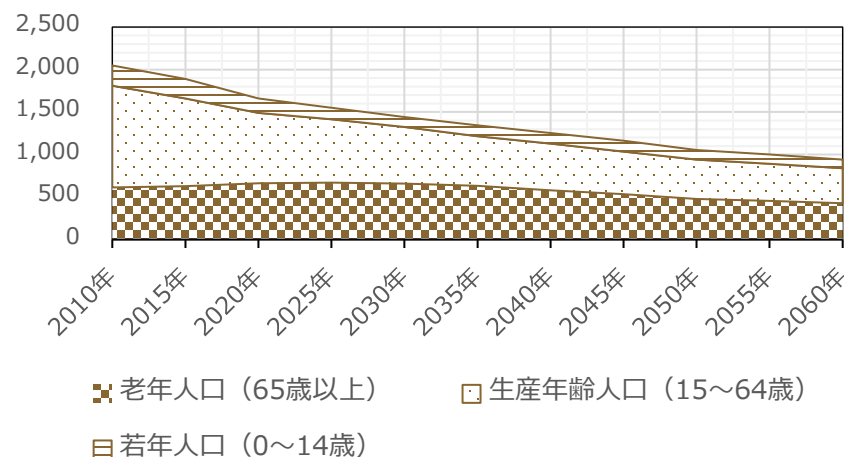
総人口は減少傾向が続いており、2060年には、721人減少し941人となる見込みである。

若年人口および生産年齢人口はともに減少傾向であり、老年人口も2025年以降は同様に減少見込みである。2050年には生産年齢人口と老年人口がほぼ同数になると見込まれる。

人口推移



年齢3区分別人口

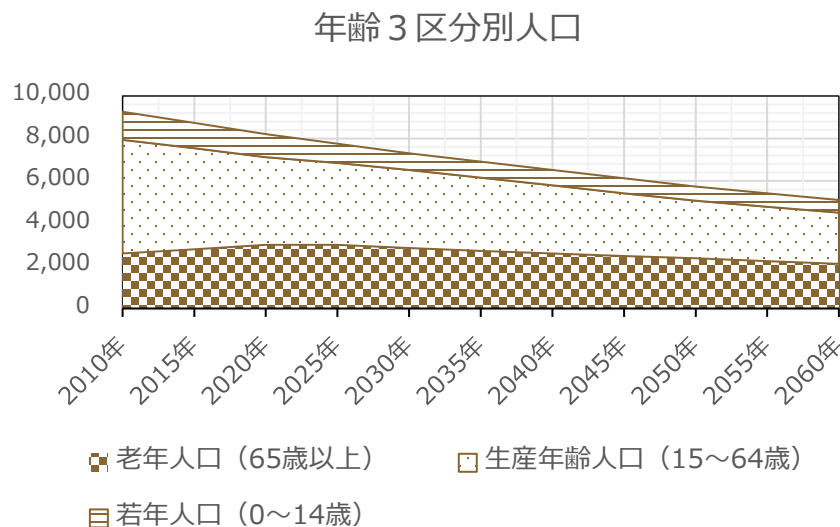
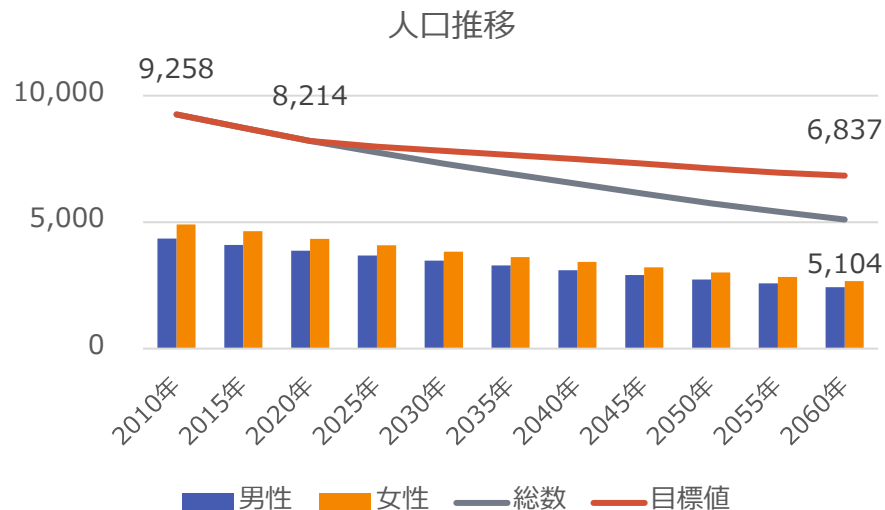


4 -(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計

【山内町】

山内町は、2020年時点の市内総人口に占める割合が17パーセントとなっている。
総人口は減少傾向が続いており、2060年には、3,110人減少し5,104人となる見込みである。

年齢3区分別人口でもても全区分で減少傾向となる見込みである。



【将来人口の目標】

4 -(2) 町別の総人口および年齢3区分別人口の推移と将来推計

【北方町】

北方町は、2020年時点の市内総人口に占める割合が14パーセントとなっている。

総人口は減少傾向が続いており、2060年には、2,553人減少し4,324人となる見込みである。

若年人口および生産年齢人口はともに減少傾向であり、老年人口も2025年以降は同様に減少見込みである。2060年には生産年齢人口と老年人口がほぼ同数になると見込まれる。

